



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年1月31日

上場会社名 株式会社 シーティーエス 上場取引所 東  
 コード番号 4345 URL https://www.cts-h.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 横島 泰蔵  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 経理財務部長 (氏名) 北原 巻雄 TEL 0268-26-3700  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	8,152	2.5	1,990	0.7	2,033	6.3	1,294	△1.2
2022年3月期第3四半期	7,955	5.8	1,976	16.6	1,913	18.0	1,309	19.5

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 1,293百万円 (△2.9%) 2022年3月期第3四半期 1,333百万円 (19.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	30.54	—
2022年3月期第3四半期	30.86	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	14,535	10,126	69.7
2022年3月期	14,361	9,743	67.8

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 10,126百万円 2022年3月期 9,743百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	7.00	—	11.00	18.00
2023年3月期	—	10.50	—		
2023年3月期（予想）				11.50	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2023年3月期第2四半期末配当の内訳 1株当たり10円50銭（普通配当 8円00銭 記念配当 2円50銭）  
 2023年3月期（予想）期末配当の内訳 1株当たり11円50銭（普通配当 9円00銭 記念配当 2円50銭）

### 3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,200	6.2	2,820	7.3	2,800	10.4	1,890	9.2	44.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	43,400,000株	2022年3月期	43,400,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,020,845株	2022年3月期	1,020,845株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	42,379,155株	2022年3月期3Q	42,449,188株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 5「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結損益計算書関係) .....	9
(セグメント情報) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2022年4月1日～2022年12月31日)の当社グループの主要顧客である土木・建築業界を取り巻く環境に関し、公共投資については、国土強靱化計画に基づく防災対策等の対応が進められているものの、全体ではやや低調に推移しました。民間投資については、前年同期と比較し、堅調に推移しました。他方で、新型コロナウイルスによる社会動向の変化、資材・エネルギー価格の高騰等の影響については、予断を許さない状況が続いております。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、2021年3月期から2023年3月期までの3ヵ年を対象にした中期経営計画を策定しております。当社グループは建設ICTの専門企業として、その中核となる中期経営方針に下記の4項目を掲げるとともに、2023年3月期において達成すべき目標として3項目を設定しております。これらの方針を基に、目標を達成すべく事業を着実に展開してまいりました。

#### <中期経営方針>

- ・地場ゼネコンから広域ゼネコンへターゲット拡大
- ・土木系から建築系へ対象顧客の業種拡大
- ・DDS・SMS事業を中心とした独自商品・サービスの開発強化及びサポートの充実
- ・レンタルを基本とした営業・サポート体制の構築及び全国展開の推進

#### <中期経営目標>

- ・主力商品・サービス売上高(※) 75億円超(2020年3月期対比 40%超)
- ・営業利益率 25%超
- ・ROE 20%超

※ 主力商品・サービスは、繰り返し利用が多い「レンタル」とその「付随商品・サービス」及び「内製サービス」により構成されています。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、主力商品・サービスの営業に注力した結果、既存顧客を中心に受注が順調に推移し、売上高は8,152百万円(前年同期比2.5%増)となりました。

利益面では、DDS事業を中心に付加価値の高い主力商品・サービスの売上高が堅調に推移し、売上総利益が4,063百万円(前年同期比3.7%増)となりました。また、販売費及び一般管理費は、主に処遇改善・人員増等による人件費の増加に加え、新規出店などの積極的な先行投資を含め、営業活動費用が増加したことから、2,073百万円(前年同期比6.7%増)となり、営業利益は1,990百万円(前年同期比0.7%増)となりました。経常利益については、営業外費用において、当社の持分法適用関連会社であるファイルフォース株式会社ののれんの減損を計上した一方、営業外収益において、純投資による有価証券売却益を計上したことから、経常利益は2,033百万円(前年同期比6.3%増)となりました。また、特別損失においては、DDS事業に関して事業戦略的に保有している株式会社トリプルアイズの有価証券について評価損が生じたこと等から、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,294百万円(前年同期比1.2%減)となり、前年同期を下回る実績となりました。ファイルフォース株式会社ののれんの減損につきましては、本日(2023年1月31日)公表の「関連会社株式評価損(個別)及び持分法による投資損失(連結)の計上に関するお知らせ」をご覧ください。

なお、主力商品・サービスについては、主に既存顧客を中心に受注が堅調に推移したことにより、売上高は5,268百万円(前年同期比4.8%増)となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の実績は、下記表のとおりとなりました。

## ▼当社グループ

(単位：百万円、%)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	前年同期比
売上高	7,955	8,152	2.5
営業利益	1,976	1,990	0.7
営業利益率	24.8	24.4	△0.4pt
経常利益	1,913	2,033	6.3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,309	1,294	△1.2

## ▼主力商品・サービス

(単位：百万円、%)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	前年同期比
売上高	5,025	5,268	4.8

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

<DDS事業 (デジタルデータサービス事業 : Digital Data Service) >

当事業につきましては、クラウドストレージサービスを中心に業界に特化したITインフラサービス (情報共有システム、回線サービス、固定IP電話サービス、ネットワークカメラ、遠隔作業支援システム、システム機器等) のレンタル等に関して、建設業に特化したクラウドストレージサービス「Fileforce For Construction」及び映像サービスを中心とした「DEクラウドサービス」等の商品開発・機能強化等を継続しつつ、営業面ではクラウドストレージサービスを軸とした提案活動に注力してまいりました。その結果、既存顧客を中心に受注が堅調に推移し、当事業の売上高は4,268百万円 (前年同期比6.3%増) となりました。利益面は、ITインフラサービスを主とした主力商品・サービス売上高の伸長により売上総利益が増加しました。また、営業活動費用の増加に加え、デジタル機器管理センターの体制強化に伴う人件費の増加などにより、販売費及び一般管理費も増加いたしました。売上総利益の増加が大きく、セグメント利益 (営業利益) は1,296百万円 (前年同期比7.3%増) となりました。

<SMS事業 (測量計測システム事業 : Surveying Measurement System) >

当事業につきましては、測量計測機器及び測量計測システム等のレンタル・販売に関して、レンタルを主とした主力商品・サービスの営業に注力した結果、既存顧客を中心にワンマン測量システム等のレンタル受注は堅調に推移しました。販売については、受注が順調に推移したことから、当事業の売上高は2,782百万円 (前年同期比2.9%増) となりました。利益面は、レンタルをはじめとした主力商品・サービス売上高が伸長した一方、レンタル資産の拡充に伴い、原価が増加したことにより売上総利益が減少しました。また、営業活動費用の増加に加え、測量機器管理センターの体制強化に伴う人件費の増加等により、販売費及び一般管理費も増加したことから、セグメント利益 (営業利益) は499百万円 (前年同期比7.2%減) となりました。

<SH事業 (スマートハウス事業 : Smart House) >

当事業につきましては、建設現場事務所用ユニットハウス及び什器備品等のレンタル・販売等に関して、主力商品・サービスである自社レンタルの新規貸出及び稼働がやや低調に推移したこと、また販売案件が少なかったことから、当事業の売上高は818百万円 (前年同期比7.7%減) となりました。利益面は、自社レンタルに関して、新規貸出に伴う付帯サービス料が減少したことに加え、販売の減少、ハウスの改造・改修に伴う原価が増加したことにより売上総利益が減少し、セグメント利益 (営業利益) は150百万円 (前年同期比17.1%減) となりました。

<その他>

その他につきましては、売上高は283百万円 (前年同期比18.7%減) となりました。セグメント利益 (営業利益) は44百万円 (前年同期比10.2%減) となりました。

▼セグメント

(単位 : 百万円、%)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	前年同期比
DDS事業			
売上高	4,016	4,268	6.3
セグメント利益	1,207	1,296	7.3
セグメント利益率	30.1	30.4	0.3pt
SMS事業			
売上高	2,704	2,782	2.9
セグメント利益	537	499	△7.2
セグメント利益率	19.9	17.9	△2.0pt
SH事業			
売上高	886	818	△7.7
セグメント利益	181	150	△17.1
セグメント利益率	20.5	18.4	△2.1pt
その他			
売上高	348	283	△18.7
セグメント利益	49	44	△10.2
セグメント利益率	14.1	15.6	1.5pt

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における総資産は14,535百万円となり、前連結会計年度末と比較して174百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が1,265百万円増加した一方で、リース資産が268百万円、投資有価証券が841百万円減少したことによるものであります。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における負債は4,408百万円となり、前連結会計年度末と比較して208百万円減少いたしました。これは主にその他流動負債が288百万円増加した一方で、未払法人税等が274百万円、リース債務（固定）が256百万円減少したことによるものであります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は10,126百万円となり、前連結会計年度末と比較して382百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益1,294百万円を計上した一方で、剰余金の配当911百万円を行ったことによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は69.7%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、当第3四半期連結累計期間の業績が概ね計画通りに推移しており、2022年4月28日の「2022年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,172	6,437
受取手形及び売掛金	1,795	1,731
棚卸資産	312	390
その他	157	408
貸倒引当金	△14	△2
流動資産合計	7,422	8,966
固定資産		
有形固定資産		
リース資産(純額)	2,368	2,099
その他(純額)	1,796	1,752
有形固定資産合計	4,164	3,851
無形固定資産		
	140	123
投資その他の資産		
投資有価証券	2,329	1,488
その他	304	115
貸倒引当金	△1	△8
投資その他の資産合計	2,632	1,594
固定資産合計	6,938	5,569
資産合計	14,361	14,535
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	458	504
未払法人税等	523	249
その他	1,771	2,060
流動負債合計	2,753	2,814
固定負債		
リース債務	1,590	1,334
その他	273	259
固定負債合計	1,864	1,594
負債合計	4,617	4,408
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	425	3,000
資本剰余金	2,399	—
利益剰余金	7,486	7,694
自己株式	△722	△722
株主資本合計	9,589	9,972
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	154	153
その他の包括利益累計額合計	154	153
純資産合計	9,743	10,126
負債純資産合計	14,361	14,535



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	7,955	8,152
売上原価	4,036	4,088
売上総利益	3,919	4,063
販売費及び一般管理費	1,943	2,073
営業利益	1,976	1,990
営業外収益		
受取配当金	21	106
投資有価証券売却益	—	182
その他	7	5
営業外収益合計	28	294
営業外費用		
支払利息	35	37
持分法による投資損失	56	196
租税公課	—	18
営業外費用合計	91	251
経常利益	1,913	2,033
特別利益		
投資有価証券売却益	20	—
特別利益合計	20	—
特別損失		
投資有価証券評価損	—	60
特別損失合計	—	60
税金等調整前四半期純利益	1,934	1,973
法人税、住民税及び事業税	615	669
法人税等調整額	8	9
法人税等合計	624	679
四半期純利益	1,309	1,294
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,309	1,294

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	1,309	1,294
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	23	△0
その他の包括利益合計	23	△0
四半期包括利益	1,333	1,293
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,333	1,293
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結損益計算書関係）

持分法による投資損失

当社の持分法適用関連会社であるファイルフォース株式会社について、当初策定した事業計画からの乖離が大きいことから、持分法適用関連会社に対する投資の回収可能額を検討した結果、のれん未償却残高に相当する113百万円を持分法による投資損失として営業外費用に計上しております。詳細につきましては、本日（2023年1月31日）公表の「関連会社株式評価損（個別）及び持分法による投資損失（連結）の計上に関するお知らせ」をご覧ください。

(セグメント情報)

## I 前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	DDS 事業	SMS 事業	SH事業	計				
売上高								
顧客との契約から生 じる収益	1,984	1,741	74	3,800	342	4,143	—	4,143
その他の収益 (注) 3	2,031	962	812	3,806	5	3,812	—	3,812
外部顧客への売上高	4,016	2,704	886	7,607	348	7,955	—	7,955
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	4,016	2,704	886	7,607	348	7,955	—	7,955
セグメント利益	1,207	537	181	1,927	49	1,976	—	1,976

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、道路標示及び標識の工事並びに安全用品の販売等を含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「その他の収益」には、「リース取引に関する会計基準」に基づき認識したレンタル収益が含まれております。

## II 当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	DDS 事業	SMS 事業	SH事業	計				
売上高								
顧客との契約から生 じる収益	1,981	1,860	41	3,883	280	4,163	—	4,163
その他の収益 (注) 3	2,286	922	776	3,985	3	3,988	—	3,988
外部顧客への売上高	4,268	2,782	818	7,868	283	8,152	—	8,152
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	4,268	2,782	818	7,868	283	8,152	—	8,152
セグメント利益	1,296	499	150	1,946	44	1,990	—	1,990

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、道路標示及び標識の工事並びに安全用品の販売等を含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「その他の収益」には、「リース取引に関する会計基準」に基づき認識したレンタル収益が含まれております。